

2024.12.20

(第3種郵便物認可)

町田の気泡掘削が原因

リニア工事 JR東海分析公表

地下40メートル以上の大深度地下を掘るリニア中央新幹線のトンネル掘削ルートに近い東京都町田市の民家の庭で、地下から水と気泡がわき出した問題で、JR東海は19日、掘削との関係を認め、シールドマシン（掘削機）から地中に放出される気泡剤が、地下の水や空気を押し上げるなどして地表に出てきたとする分析結果を公表した。

（梅野光春、北浜修）

当時、地下45メートルの大深度を掘っていた掘削機の影響で、水や気泡が出たことになる。大深度トンネルの掘削の影響が地表で確認されたのは、東京都調布市の東京外郭環状道路（外環道）の陥没事故に続き2例目。

JRは「気泡や水質は人体に影響がなく、建物などにも変化は観測されていない」としている。JRによると、水と気泡は10月22日、第1首都圏トンネル小野路工区の掘削機から水平方向に約40メートル

離れた民家の庭先1カ所で見つかった。同日中に小野路非常口から247メートル地点で掘削を中断、水と気泡は同日に止まった。

JRは有識者を交えて調査。土を取り込みやすくするため掘削機の前面に放出するシェービングクリーム状の気泡剤に含まれる空気が、主に砂でできた周囲の地層に浸透し、隙間を伝って地下の水や空気とともに湧出したと結論づけた。途中にある水や空気を通しにくい層では、古井戸のよう

小野路非常口＝19日、東海中央新幹線の町田市で、掘削機から「あさづり」



な人工的な穴を伝ったとみられるという。今後は気泡剤が地中に浸透しにくくなるよう、掘削機前面の土を押し込む圧力を弱め、気泡剤の放出方法も工夫する。さらに古井

戸の存在など同じような条件がないか、別の工区でも情報収集を進めるとい

う。JRの担当者は「近隣の方に迷惑をかけ、申し訳ない」と謝罪。地元向けに今

月22、23日に町田市小野路町の現場事務所での説明の場を設ける。今月下旬に掘削機の状態を保つため5メートル掘削させ、来年1月以降に調査掘進を再開する。

町田市の市民団体「リニア中央新幹線を考える町田の会」の河合貞子・共同代表は本紙の取材に、「（工事との因果関係を）やっと認めたが、認めたことでは解決にはならない。今後も気泡剤を使うことに変わりはない。人体への影響などは本当にないのか」と疑問を呈した。

第1首都圏トンネルの掘削ルート近くでは今年8月以降、東京都品川区の目黒川でも気泡が確認されている。ただ気泡剤を使っていた時期にも発生していたなどとして、JRは掘削との関係を否定している。

一画に指定された

を出した

（写真）